

# 石川県立美術館だより

平成14年5月1日発行 第223号



花三島飾壺「峙つ」 昭和59年 大樋長左衛門  
改組第16回日展 / 日本芸術院賞 日本芸術院蔵

日本芸術院会員  
**大樋長左衛門の世界**  
4月25日(木)~5月19日(日)会期中無休

国立カイロ博物館所蔵

## 古代エジプト文明展

4月28日(日)~5月19日(日)会期中無休



ブセンネス 世の黄金のマスク 国立カイロ博物館蔵

### 目次

国立カイロ博物館所蔵 古代エジプト文明展...2	貸出中の所蔵品、企画展示室 .....6
日本芸術院会員 大樋長左衛門の世界.....2	各地の展覧会、県美Q & A 他 .....6
常設展示室 主な展示作品.....4	企画展TOPIC、五月の行事案内 他 .....7
展覧会回顧(利家と未森の合戦).....5	所蔵品紹介、ミュージアムショップ通信、講演会案内...8
図書閲覧室NOW、美術館小史・余話(22)...5	

ホームページアドレス <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

企画展示室(第7~9展示室)

国立カイロ博物館所蔵

# 古代エジプト文明展

4月28日(日)~5月19日(日)会期中無休

主催/北國新聞社

共催/石川県立美術館・NHK金沢放送局

特別協力/エジプト・アラブ共和国文化省考古庁、観光省  
国立カイロ博物館

古代エジプト文明は、豊かなナイルの恵みによって開花しました。それは紀元前三千年ころ、今から五千年もさかのぼる時代のことです。

エジプトの人々は、自然界のさまざまな現象に神を意識し、来世での再生を信じて巨大なピラミッドや壮麗な神殿などを造りました。そしてそこには色鮮やかな絵画やレリーフ、彫像、道具、装飾品などを残しており、それらの遺跡は、今でも世界中の人々を魅了しています。創造をはるかにこえた古代に驚くほど高度化された文明が栄えていたという事実には、人々が驚きと感動を覚えるからでしょう。

これらの遺品の数々を通じて私たちは、当時の人々の生活や精神世界を、また同時にその優れた造形から古代エジプト人の卓越した美的感覚をうかがい知ることができます。本展は、その遺品をもとに「ファラオの興り」「ファラオの隆盛」「ファラオの栄光」「ファラオの交流」「ファラオの輝き」という五つのテーマを設定し、およそ千年単位で人類の歴史をふりかえり、かつて人類が築き上げてきた社会や文化を概観し、文明が未来に向けて提案するものを考察しようとする試みです。

今回は、エジプト政府の特別なご協力のもと、今まで日本では実現できなかった規模での開催となりました。国立カイロ博物館の至宝《ブスセネス 世の黄金のマスク》(表紙写真)をはじめ、日本初公開の名品を含む七十五点の作品を公開して、古代エジプトの栄光を紹介するものです。



ホルスを抱くイシス女神小像

た。国立カイロ博物館の至宝《ブスセネス 世の黄金のマスク》(表紙写真)をはじめ、日本初公開の名品を含む七十五点の作品を公開して、古代エジプトの栄光を紹介するものです。



アマルナ王宮の彩画



ハゲワシをかたどった襟飾り



ブスセネス 世の腕輪



神官アメン・エム・ペルムトの彩色木棺と内蓋

観覧料	個人		団体(20名以上)		
	大人	中高生	大人	中高生	小学生
当館友の会会員は受付での会員証提示により、団体料金でご覧になれます。	1,300円	1,000円	1,000円	800円	600円

常設展示室(第5・6展示室)

日本芸術院会員

# 大樋長左衛門の世界

4月25日(木)~5月19日(日)会期中無休

柿釉飾りのある花器「歩いた道」  
改組第14回日展 文部大臣賞  
昭和57年  
東京国立近代美術館蔵



本展覧会は、平成十一年に日本芸術院会員に就任された、金沢市在住の陶芸家である大樋長左衛門氏の初めての本格的な回顧展として企画されました。

氏は、昭和二年に九代大樋長左衛門の長男として金沢に生まれ、伝統ある大樋焼の茶陶作りを受け継ぐとともに、感性鋭い現代感覚にあふれた作品を日展などに発表し続けてきました。

その作陶世界は、彫塑的要素の強い造形力が前面に押し出された作品と、純然たる茶陶類の大きく二つに分かれることは一目瞭然です。すなわち、日展や日本現代工芸美術展を主とする展覧会作家としての世界と、伝統ある茶陶の卓越した名人としての世界です。

そこで本展覧会を構成するにあたっては、日本芸術院会員として大成するまでの道程を見るために、日展を中心とした展覧会出品作を主にしたもので、形体や大きさなどを加味して【壺・花器】【置物等】【壺・花器】の三つに細分するものを第一グループとし、また【茶盤】【水指】【香合】【花入】【食籠等】の用途別に編成した伝統的な茶陶類を第二グループとしました。そして建築空間との関わりが強いもので、実作を展示できる【陶額】と移動不可能なため写真パネルで展示せざるを得ない【陶壁】の二つからなるものを第三とし、最後に達意あふれる画技を示す【絵画】と、軽妙かつ飄逸さにみちたデザインによる漆芸の棗や盆、そして判物の椅子などの【他の工芸】とをあわせて陶芸以外のグループという、四つの大きな柱を建てて構成することにしました。その結果、総数百六十五点という多くの点数によって構成されることになり、文字通り氏の旺盛な創作活動の全容を示すのにふさわしい内容となりました。

さて、例えば第一グループの作品を見ると、まず誰しもが驚くのはその独自の造形感覚ではないでしょうか。そもそも大樋焼の茶陶は、陶土を手捏ねと削り

を主として成形されるもので、塑像彫刻にも通じる造形法によつています。したがって、形に対する厳しい指向性は、茶陶作りとは一見かけ離れたものと思われがちですが、むしろ近親性の強いものと言えます。何よりも東京美術学校で鍍金を学んだことは、そうした感性を高めるのに役立つことは間違いありません。

次に目を見張るのは、伝統ある大樋焼特有の釉を はじめとして、白釉、碧釉、柿釉、黒釉、あるいは三彩釉など多種類の釉調を自在に操るばかりか、千点文や三島手、あるいは布目などの加飾法にも独自の工夫を凝らすなど、文字通り多彩な作陶世界が広がっていることです。それを可能にしたのは、やはり何と云っても、京都楽家の技術を直接受け継ぎ、江戸時代から現在も続くただ一つの地方窯である大樋焼窯元の長男として、早くから作陶の基本技術を身につけたことがまず挙げられます。そしてそのうえに茶陶を含めた茶道に親しむことで、東洋陶磁全般についての幅広い知見を得たことによるものと思われれます。とはいえ、それらを実際に作品として再現することはそうそう誰にでも出来ることではなく、しかもその模倣に終わらずに、そこから触発されて独自の作陶世界を築くことは並大抵のことではありません。第二の茶陶グループこそ、その成果が結実したものと言えましょう。

「美しい形を究めるといふ美意識は、茶盤だけ作つていけば出来るものとは考えられません。他のものをやってみればまた茶盤を作るべきであると思えます」との信条こそ、まさに氏の創作の原点でしょう。換言すれば、東洋陶磁の古典をよく咀嚼しながら、常に新しい作陶表現を目指しているのが大樋陶芸の根幹なのです。茶道の世界で厳然と受け継がれている美の規範と、彫刻や金工までも含めた現代的な造形感覚とが折り重なって、伝統と革新が表裏一体となっていることこそ、大樋陶芸の魅力の源泉であると思わざるを得ません。



大樋釉陶額「大海遊魚」 昭和45年 裏千家今日庵蔵



大樋釉花鳥文食籠 昭和43年 現代陶芸の新生代展 京都国立近代美術館蔵



吹墨飾りのある花器 昭和56年 第20回現代工芸美術展 草月美術館蔵

常設展示室

主な展示作品

4月25日(木)~5月19日(日)

●=国宝 =重要文化財 =重要美術品  
=石川県指定文化財

前田育徳会展示室

特集 春の優品選

- 黒漆布目引出絵替絵具筆筒
- 越中愛本橋図
- 春景山水図
- 桜樹幔幕文時絵広蓋
- 青磁八葉蓮華鉢
- 蒔絵三十六歌仙花卉文堤重
- 梨子地桐文時絵海無鞍
- 牡丹唐草柳に燕象嵌鏡

伝二代五十嵐道甫

佐々木泉玄

橋本雅邦

伝与四郎

第1展示室

●色絵雄香炉

色絵雌雄香炉

野々村仁清

第2展示室(古美術)

古九谷

色絵布袋図平鉢

色絵百花散双鳥図平鉢

青手牡丹図平鉢

特集 春の優品選

飴釉蟹五角香合

飴釉加賀光悦写茶碗

黒釉蒲公英図茶碗

染付錆絵杜若図茶碗

銀象嵌花筏文鏡

銀象嵌丸文に紗綾形繫鏡

銀象嵌籠目紋鏡

銀象嵌丁字散文鏡

初代大樋長左衛門

初代大樋長左衛門

尾形乾山

尾形乾山

小市永次

勝木氏賢

吉平

氏政

第3・4展示室(油彩画・日本画・彫塑・造形)

油彩画

彼女と人形

酔って候

フードの女

亡き息子を忍ぶ母親の像

ティーチーノ寸景(スイス)

プリズム分光画

N氏の午後

熱叢夢

円地信二

鴨居 玲

高光一也

竹澤 基

田辺栄次郎

西田洋一郎

松本 昇

宮本三郎

日本画

駱駝

午睡

求餌図

帽子の女

光

貌

街の時計台

沼

彫塑・造形

去りゆく夏

華ごろも

昇華

思惟

風

上田珪草

稲元 実

大沼憲昭

坂根克介

鹿見喜陌

中村 徹

山本知克

由里本 出

銭亀賢治

田中 昭

石田康夫

坂 坦道

得能節朗

第5・6展示室(工芸)

日本芸術院会員

大樋長左衛門の世界

花三島飾壺「峙つ」

柿釉飾りのある花器「歩いた道」

吹墨飾りのある花器

白釉三彩花器「達磨」

黒絵干点文茶盃

大樋釉渦紋筒水指

碧釉貼花文鶴首花入

大樋釉花鳥文食籠

大樋釉陶額「大海遊魚」

日本芸術院蔵

東京国立近代美術館蔵

草月美術館蔵

金沢美術工芸大学蔵

金沢市立中村記念美術館蔵

当館蔵

北國新聞社蔵

京都国立近代美術館蔵

裏千家今日庵蔵

各室では以上のほかに多数の作品が展示されています。(第1展示室は色絵雄香炉二点のみ)

友の会会員の皆様は、今回同封いたしました「常設展入場券」でご覧いただくことができます。どうぞご利用下さい。

観覧料

一般	350円	個人	一般	280円	団体(20名以上)
大学生	280円		大学生	220円	
高校生以下は	無料		高校生以下は	無料	



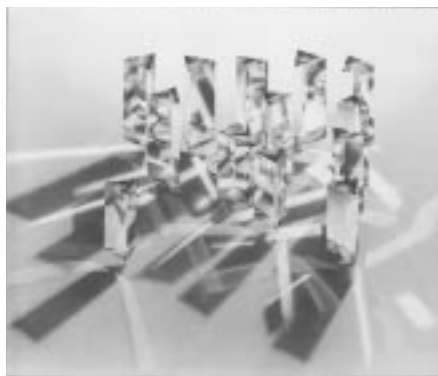
染付錆絵杜若図茶碗 尾形乾山



色絵百花散双鳥図平鉢 古九谷



貌 中村 徹



プリズム分光画 西田洋一郎



風 得能節朗


 展覧会回顧

## 利家と末森の合戦

NHK大河ドラマ「利家とまつ 加賀百万石物語」放映開始に協賛し、前田育徳会展示室で特別陳列として企画したものです。

ドラマは、一月六日の第一回放送時は近年にない高視聴率を示したとか、特にご当地石川県では五〇パーセントを超える率を示したと報道され、これも唐沢寿明、松嶋菜々子という今もっとも人気のある主役俳優をはじめ、豪華な出演者と日本人が好み親しみのある信長・秀吉の戦国時代が舞台であることも大きな要素と思われます。

さて、展覧会のテーマ【利家と末森の合戦】ですが、秀吉の天下統一とそれを阻もうとする徳川家康・織田信雄連合の戦い、小牧・長久手の合戦に呼応した佐々成政と前田利家との間で戦われたものであり、前田家にとっては浮沈を決めた合戦として位置づけられ、たいへん重要視されてきた合戦でした。このため、明治に入ってから当時の前田利嗣侯爵によって七年の歳月を費やし、贅を尽くして制作された上・中・下三巻からなる絵巻が育徳会に所蔵されているので、それを主に関連の残された文化財で再見してみようと意図しましたが、当初二巻借用予定が事情により一巻になったので非常に残念でした。しかし、これまで未公開であった末森城守将の奥村永福の夫人安が所持し、画巻でも描かれている薙刀が石目筒とともに実際に使用された歴史的遺物として展示され、興味を持っていただいたことと思われます。ドラマの舞台もいよいよ越前、能登、加賀と北陸が登場し、夏頃には末森の合戦もテーマになると思われるので楽しみにしています。

(末吉守人 普及課長)

## 図書閲覧室NOW

### 図書資料の収集について

今回は、当館の蔵書について、その内容や収集方法などを、かいつまんで述べてみたいと思います。

当館の所蔵になる図書は、ご承知のとおり、館内の来館者用のパソコンから検索して、図書閲覧室で閲覧することができます。平成十四年三月現在で、約二万三千冊の中から、閲覧したい本を探すことが可能です。検索方法は、「分類で探す」、「キーワードで探す」の二種類で、このうち「分類で探す」の方は、当館独自の分類表に基づいたものです。その内訳は、「全集・シリーズ」約四千冊、「美術館等展示図録」約一万冊、「単行図書」約二千七百冊、「年報・研究紀要等」約三千二百冊、「総記・年鑑・辞典等」約五百冊、「美術館等所蔵品図録等」約千八百冊、「官公庁等刊行物」約七百五十冊となります。

これらの蔵書は、おおむね他の美術館・博物館をはじめ、大学等の教育機関、美術団体、出版社、個人の方などからの寄贈によるものが多数を占めています。ちなみに平成十三年度の例でみると、寄贈本は約千冊、購入本は約五十冊となっており、この割合は近年大差ないと思われるので、当館の図書の収集において、いかに寄贈が大きなウエイトを占めているかがわかります。中でも、各地で行われる展覧会図録が約四百四十冊、美術館や大学などの年報・研究紀要などが約三百冊と多く、このジャンルの蔵書が、一般の図書館とは異なる当館の特徴といえましよう。

(ただし、「ここにあげた数字の中には、雑誌類が含まれておりませんので、ご了承下さい。)

\* 開室時間は午前九時三十分～午後四時三十分。貸出し、コピーサービスは行っておりません。

## 美術館小史・余話 22

嶋崎 丞すむ 当館館長

婦人学級生を募集するにしても、まずその先に講座内容と講師を決定しなければなりません。先号で述べたように、石川県らしい講座内容とは何か、ということを検討した結果、やはり伝統工芸を中心にすべきだということになった。そして重要無形文化財財保持者、いわゆる人間国宝を総動員し、それに準ずる作家の方々にもお願いして、石川県の美術工芸のすべての分野にわたって講座内容を組むこととした。

しかしいざ組んでみると、二十四回予定のうち半分はどうか埋まり、講師陣もそうそうたる顔が揃ったが、残りの半分は全く見当がつかない。そこで、開催する企画展の列品解説、鑑賞会を挟んでみましたが、それでも五、六回が空いてしまう。結局お前が美術史の連続講座を担当するというところで、私にお鉢がまわってきた。その頃の私は美術館に勤務はしていたものの、やっと十年そこそこの、まだ若造であり、ほかの講師陣の顔触れからしても、バランスが全くとれないというところで、再三辞退したのであるが、高橋勇館長(当時)の命令ということで、担当せざるを得なくなった。これは私にとっては大変なことであったが、人間国宝全員にご出講いただく交渉は、またこれ以上に大変な仕事であった。それでも一応どうにか全員のご了解を得ることに成功した。

人間国宝の方々から、いろいろとお話を聞くことが出来る講座ということで、募集を行ったら希望者が殺到し、参加者は抽選で選ぶことになった。心配した私の美術史講座も、猛勉強の成果が出たのか、割合好評であった。何はともあれ戦後における美術館の講座としては、全国で二番目であり、それは教育活動の走りでもあった。

### 美術を学ぶ婦人学級(二)







長篠合戦図屏風(部分)  
江戸18~19世紀 財団法人徳川黎明会 徳川美術館蔵

企画展TOPIC

「利家とまつ」

加賀百万石物語展 その一

一月六日から始まった、NHK大河ドラマ「利家とまつ」加賀百万石物語」の放送も三分の一を過ぎ、相変わらず高い視聴率を保っているようです。また三月二十三日から金沢城公園でオープンした百万石博覧会も桜の時期とかさなって予想以上に賑わっています。

さて、当美術館が企画の中心となり、東京、名古屋、金沢と巡回する「利家とまつ 加賀百万石物語展」前田家と加賀文化」の展覧会も、四月二十三日より江戸東京博物館で開催されています。

そこで、秋の当館開催まで、四回シリーズでこの展覧会の紹介を行い、鑑賞の手引きといたします。

展示構成は、大きく二部に分かれています。第一部は「前田利家 人と時代」。ここでは「槍の又左(またざ)」と恐れられた勇猛果敢な青年時代から、戦国の世を勝ち抜き、確固たる地位を築き上げるまでの、前田利家の人となり、利家が生き抜いた激動の時代背景を、信長、秀吉、まつなど、周辺人物との交流を含め関連資料により紹介します。ここで注目される作品は、かぶき者利家を象徴する煙ひやかな「金小札

白糸威素懸威胴丸具足」、蒔絵朱鞘大小刀拵」共に重要文化財に指定されています。前者は九月十四日から二十七日までの二週間しか展示されないのにお見逃しの無いように、「長篠合戦図屏風」、これは織田信長・徳川家康の連合軍が、天正三年(一五七五)に設楽原で武田勝頼の大軍を、鉄砲隊の画期的な活用な

どで撃破した戦いを描いたもの。馬防柵で鉄砲隊を指揮する利家、その後ろに金扇に日輪の馬標の家康、金瓢箪の馬標の秀吉、最奥には永楽銭の幟旗と唐人笠兜をかざした信長の隊がそれぞれ描かれ、歴史の一幕を垣間見るようです。その他、利家が次男又わか(利政)の麻疹病回復の祈禱を依頼した書状を初め、領国支配安定のため寺社、百姓への書状などその人となりをつかがわせるものなど興味深い構成となっています。

第二部は、「加賀文化の確立」。ここでは、利家を源流として、百万石の城下で花開いた様々な美術工芸の名品を紹介いたします。まず「大名物茄子茶入 銘富士(重要文化財)、これは足利義輝の所持で、織田信長に伝わり、秀吉の北野大茶湯にも出陳され、後に秀吉に献じられて、慶長二年(一五九七)秀吉から利家が拝領し、以後前田家の家宝として今日まで伝わっているもの。三代利常が徳川將軍家に対抗し、百万石の財力を投入して買収求めた平安王朝最高の精神文化を示す「古今集巻十九残巻(高野切)」、「十五番歌合」共に国宝など、加賀文化の形成とその成果を示します。詳しくは以後のシリーズで紹介いたしますのでご期待を。(末吉守人 普及課長)

五月の行事案内

《入場無料・いずれも午後一時三十分から行います》

月 日	行 事	内 容	会 場
5 / 5 (日)	CDコンサート	バッハのカウンター J.S.バッハ カンタータ第26番、第27番(約35分)	ホール
5 / 11 (土)	土曜講座	仏像41 西の京のほとけ (谷口 出 学芸専門員)	講義室
5 / 12 (日)	講演会	私の作陶人生 講師 大樋長左衛門氏(陶芸家・日本芸術院会員)	ホール
5 / 18 (土)	土曜講座	やきもの探訪(2) 乾山 (末吉守人 普及課長)	講義室
5 / 19 (日)	月例映画会	古代エジプト・遙かな原風景 ツタンカーメン黄金幻想(23分)	ホール
5 / 25 (土)	土曜講座	名画への挑戦 2 尾形光琳筆「紅白梅図屏風」 (村瀬博春 学芸主査)	講義室
5 / 26 (日)	月例映画会	日本の美術工芸 その手わざと美(28分)	ホール

今月の全館休館日は五月二十日(月)・二十二日(水)です。

人事異動

今年度の当館人事異動は次の通りです。

- 転入
- 総務課 課主幹 山本信幸(愛育養護学校より)
- 普及課 学芸員 西ゆう子(野々市中学校より)
- 転出
- 総務課 課主幹 柴田隆吉(教育委員会生涯学習課へ)
- 学芸第一課 学芸主任 北澤 寛(県民文化局文化振興課へ)
- 新規採用
- 総務課 嘱託 信田興平 北方秀和 高田一男 山本真紀
- 臨時 沖津 愛
- 退職
- 総務課 嘱託 舟崎健郎 筆 勝吉 西井健太郎
- 力丸有紀 岸本優子



## 去りゆく夏

銭亀賢治 昭和13年(1938)～

昭和52年 1977

第9回改組日展

高さ193.0 幅58.0 奥行46.5 (cm)

麦藁帽にジャケットを引っかけ、短パン姿というラフで健康的な女性像です。題名からも夏の終わりの海辺が連想されそうです。像容は、真っ直ぐで伸びやかな脚が、しなやかな量の流れを示しながら体軀を支え、上向き顔とあみだに被った帽子の鏝の内面には、心地よい風を感じさせてくれます。

一見単純なポーズで、モデルから受けた印象を率直に表現したように受け取られる作品ですが、よく見ると作者の繊細な造形感覚が功を奏していることに気付かされます。まず、少し前後に開いた脚にうまく重心を配分し、衣服で隠れてしまう腹部から胸部にかけての量の流れも、脚の量と連動して頸へと繋がりを見せています。またジャケットや短パンの荒いタッチは女

性の肌の細やかさを引き立てており、さらにジャケットと胸部の境の溝は、上体の奥行きと抑揚を演出しています。そして通常では重く感じられてしまうであろう頭部と帽子の量も、帽子の面をカーブさせたり、スリットを入れるなど工夫を凝らし、作品に詩情を醸し出すことにも成功しています。それから腹部前で組んだ両手は、垂直方向の構成にのみならず、作品に詩情を醸し出して、アクセントとして機能しているだけではなく、女性らしさを感じさせる効果をも出しているようです。銭亀賢治氏は金沢美術工芸短期大学彫刻科を卒業し、日展・日彫展で活躍しています。作風は本像のような伸びやかで情感に満ちた女性像を中心とするものです。

## ミュージアムショップ通信

ショップには前田家関連の展覧会図録がいくつか並んでいます。今月のおすめは加賀藩五代藩主前田綱紀の展覧会図録「加賀文化の華 前田綱紀展」。学問好きで知られる綱紀は、利家の曾孫に当たり、加賀文化の完成者ともいわれています。「加賀は天下の書府なり」という有名な言葉がありますね。これは綱紀の時代のことなのです。図録では彼が集めた尊經閣蔵書や綱紀ゆかりの文物、美術工芸品などがたくさん紹介され、質、量ともに充実した、スケールの大きい加賀文化の粋が存分に味わえます。残念ながら今年の大河ドラマに、綱紀は出てきませんが、平成七年の大河ドラマ「八代将軍吉宗」に登場します。高松英郎さん演じる綱紀は、なかなか風格がありました。えっ、覚えてない？



「加賀文化の華 前田綱紀展」  
(昭和63年刊 定価2,000円)

「日本芸術院会員 大樋長左衛門の世界」関連行事

### 講演会 聴講無料

演題 私自作陶人生

講師 大樋長左衛門氏

日時 五月十二日(日)午後一時三十分

会場 当館ホール

### 休館日

五月二十日(月)～二十二日(水)

### 石川県立美術館だより

第一二二三号 平成十四年五月一日発行

〒九一〇〇九六三 金沢市出羽町二番一号

TEL 〇七六(一三三)七五八〇  
FAX 〇七六(二二四)九五五〇